

ふるさと 106
歴史 散歩

昔・正月のおそび

町文化財保護委員

藤岡 一雄

あけましておめでとうございます。
今年の干支は「癸未・ミズノトヒツジ」。世事世情が混乱し、いよいよ暗くなり、内憂外患がさらに深くなる様相を呈する年。こうしたときは、万事に筋道を立てて物事を考え、正道について果敢に処していくことが肝要。

『正月に入って一番先に来るものは大黒舞である。続いて春田打ち、厩祭り、そして勇壮闊達なえんぶりがある。えんぶりは豪華なうえに、ご祝儀が出る。舞を演ずる大人には金五円也、米二升、モッキリ（盛り切り）一椀ずつ。子どもたちには菓子が出た。ご祝儀も上々なので、張り切っているいろの踊りを披露し、少年たちを興奮させた。城内小路や川原では、神楽や漫才があった。家の裏では、威勢のよい餅つきも始まる。

正月を中心に子どもたちに最も人気のあ

った遊びに「悪漢探偵」というのがあった。これは、節句に活動写真の巡業が廻ってきたが、それから受けた影響だった。「悪漢の集団が悪事を犯し逃亡。これを探偵団が追跡して逮捕する」という筋書きである。遊びは、夜の遊び。二人一組、足が速くて体のいい方が藁草履を履きハンチャ（羽織）を着る。他の一人、体重の軽い方は金下駄（下駄スケート）を履き、ハンチャにつかまって滑る。

さて、遊びは「悪漢」と「探偵」の二手に分かれる。悪漢は一切手向かいをしないという約束があるから、いかに逃げるかである。探偵は、どうやって早く捕まえるかを競う。それぞれの大将の知恵比べであった。

わたしの得意とする作戦は「三角作戦」だった。悪漢一群の反対地点に一群を配置し、その両方が見通せる地点に本陣を置いて、悪漢の動きによって味方を動かすのである。雪まみれになりながら、夜が更けるのも忘れて夢中になったものである。

そんな毎日を通り過ぎていくうちに小正月（二月十五日）が来る。小正月は女とカケダ（家畜）の年取りとされていた。ご馳走も精進料理といって、魚・肉類なしの質素なお膳だった。男尊女卑の時代である。『大正のころ。（西島憲也著・山峡風土記「葛巻界限」より）

Monthly Lee

今月のリー 17

アルバート・リー・スニードⅢ
（指導主事助手・30歳）

楽しみな帰郷

日本に来てから1年5ヵ月。この年末、初めて故郷に帰ることになり、わたしは今とても興奮しています。（12月中旬に執筆）

家に帰ったら、わたしは家族に日本での経験を話したり、写真を見せたりするつもりです。クリスマスには、日本からのプレゼントを家族に贈ります。どんな顔で驚

くか今から楽しみです。

わたしが故郷のお正月でやりたいことは、数知れません。友達とニューイヤーパーティーを開いて、ダンスをしたり、シャンパンを飲んだりしたいです。一日中フットボールの試合を見たいです。弟と釣りに行きたいです。父とゴルフもしたいです。友達とビールを飲みながら、日本でのことをいろいろ話したいです。そして、母を抱きしめたいです。

でも今は、葛巻がわたしの家です。職場の人たちは、とても親切にしてくれます。わたしはメンバーの一員だと感じています。

わたしが教えたり遊んだりしている子どもたちは、いつもスマイ



星野小の子どもたちと（前列中央がリーさん）

ルで応じてくれます。そして、わたしに新しい質問をどんどん浴びせてきます。

日本に来た当初、わたしは単なる外人の一人でしたが、今は葛巻町民の一員のように感じています。

故郷アメリカでの休暇を終えたら、自分の家がある葛巻に戻ってきます。では、Merry Christmas & A Happy New Year!